



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第3号
令和元年
5月27日

＝＝＝教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』＝＝＝

一年のうちで最も過ごしやすい季節となりました。毎朝玄関で児童会執行部の足立芽唯さんや澤田こころさんと挨拶をしています。4月は、登校班そろっての挨拶を実施しました。大きな声で挨拶できるようになりました。1学期も半ばを過ぎ、各学年とも充実した活動を展開しています。5年生の宿泊研修が先週終わり、今週は修学旅行です。全員が思い出に残る2日間になるよう期待しています。

美山小の教育はどこに向かっているか



連休中に教え子に会う機会がありました。教え子と言っても、私が30代前半で担任した中学3年生なので40代半ば、美山小保護者と同世代か少し上でしょうか。この子達とは、年1回程度会食をしています。今回は10連休のため遠方から実家に帰省中の子の参加もあり、その中に関東で暮らすA君がいました。A君は人材派遣に関わる企業で働いています。以下はA君との会話の抜粋です。

河村：「新年度になり1か月经つから、この時期はずいぶんヒマやる。」

A君：「先生、それは甘い。」

河村：「どういう事？」

A君：「1か月经つと、新入社員の何割かは離職する。その中の何割かは、辞めたいということ自分で会社に伝えられない。」

河村：「だから？」

A君：「そういう連中は、雇用主に会社を辞めたいという意思を伝えることを、俺たちに依頼してくる。」

河村：「そんなことまで君らはやるのか？」

A君：「サービスではなくビジネスとしてやる。もちろんお金は支払っていただく。そういう子たちの多くは、なぜ辞めるのかをきちんと面と向かって説明しないし、説明できない。電話やメールで伝えることもしない。俺たちに、会社を辞めることを伝えてほしいと依頼してくるので代行

する。この依頼もほとんどがメール。なぜ直接言わないのか、聞いても答えは返ってこないから聞かない。論理や筋を重んじる河村先生は、こういうタイプの人間が一番許せんと思うけど、これも現実。」

河村：「自分のケツを、お金で他人にふいてもらってるんやな。」

A君：「そのとおり、俺たちは先生じゃないから人の道を説いたりはしない。お金のためにやる。でも先生、その子たちだって学校で生き方を学んできてるはず。それに学力は低くないよ。勉強できる子も多い。」

河村：「何ちゅう事や……。」

私は、これまで「学校は学力と社会性をつけるところ」と言ってきました。今もそう確信しています。就職後1か月しないうちに会社を辞め、その意思さえ自分で伝えない(伝えられない)人間は、明らかに社会性が欠如していると言わざるを得ません。

人生、上手くいくより、いかない方が圧倒的に多いものです。努力しても、結果が出ない事も多いものです。でも、努力すればできる事もあります。きちんと努力すればできる事は、あきらめず手を抜かず、自分の力でやる。そういう力を学校で付けるべきだと強く思います。

そして、努力した結果であるのなら、よい結果でなくても恥じることはありません。もちろん、社会に出れば結果が収入につながるため、落ち込む事もあるでしょう。でも、お金があっても、自分のケツをお金で他人にふいてもらう生き方が尊いとはどうしても思えません。

美山小の教育の向かう先、それは自分の努力の結果に目を背けず責任をもち、次どうすべきかを考え、解決に向け次の一歩を踏み出せる人間を育てることと、A君とのやりとりで再認識した今年の連休でした。 (校長 河村 一彦)